

事業所ヒアリングの結果について

1 概要

(1) 目的

第四次中津川市環境基本計画を策定するに際し、市の抱えるあらゆる環境課題を把握する必要があると考える。一方、市の環境課題はいずれも多様な主体が関与する問題であり、あらゆるステークホルダーがそれぞれの立場で意見を持っているものと考えられる。

そこで、計画策定に際して市内の市民団体・事業者等に対してヒアリングを実施し、現在の市の施策・取組、今後市に期待する施策・取組、及び、中津川市の将来ビジョンについて意見を収集し、計画策定の参考にすることとした。

(2) 日時及びヒアリング対象

日程	時間	カテゴリ	ヒアリング参加者
2月6日	13:30～14:25	林業	中津森林組合 付知森林組合 加子母森林組合
	14:30～15:25	インフラ	関西電力株式会社 東海支社
13日	13:30～14:25	農業・畜産業	岐阜県中津川市農業委員会 中津川市畜産振興会 JAひがしみの
	14:30～15:25	市民団体	中津川シデコブシの会 水生生物調査学習（カワゲラウォッチング）指導員
20日	13:30～14:25	インフラ	中部電力ミライズ株式会社 岐阜営業本部

2 主な意見

(1) 脱炭素に関する意見

① 木質バイオマスの推進・体制強化

● 現状と課題

- ・ 中津川市森林組合では岐阜のバイオマスエナジー東海への枝葉出材を実施し、新たに蛭川・田瀬の2箇所をストックヤードを設置してチップ化処理を進めている
- ・ 間伐材の利用率は2〜3割程度に留まり、7〜8割が山に放置されている
- ・ 市有林の間伐事業ではC材出材の採算性が課題となっており、民有林との補助格差（民有林3,000円補助に対し市有林は事業費対象外）が問題視されている

● 施策に対する意見・要望

- ・ 組合主導から行政主導への転換
- ・ D材を事業費に盛り込むことを要望
- ・ 環境課と林政課の部局間連携強化

② 太陽光発電の導入

● 現状と課題

- ・ 中部電力ミライズと市・商工会議所の連携協定により、中核工業団地の美濃工業法面に太陽光発電を設置している。工業団地全体の太陽光発電ポテンシャルは法面のみで約1万kW、屋根を含めればさらに拡大可能。基本的に20年間のPPA（電力購入契約）形式での自家消費を想定
- ・ 屋根置き太陽光は築年数等による構造的制限がある
- ・ 法面設置は基礎工事が必要で屋根設置よりコストが高い

● 施策に対する意見・要望

- ・ 市の遊休地や保有土地への導入
- ・ 工場等の新規建設時の設置義務化や補助制度
- ・ 家庭・公共施設へのPPAによる太陽光発電の導入
- ・ 避難所となる公共施設へのソーラーカーポートの導入
- ・ 営農型太陽光発電

● その他民間の取組

- ・ リース型サービスで「太陽光発電と支払料金相殺による実質支払0」のサービス展開
- ・ J-クレジットと電気を合わせた「CO2ゼロ電力プラン」の提供

③ J-クレジット・G-クレジット

● 現状と課題

- ・ 中津川市は岐阜県内で G-クレジット創出実績が 1 位。加子母森林組合では取得クレジットの必要経費控除後 3 割を協力所有者に還元する取組をしている
- ・ 市がこういったクレジット活用の実績を可視化・PR していない

● 施策に対する意見・要望

- ・ 市がクレジットを購入し市内企業に格安で提供してはどうか
- ・ 市主催イベントで出る CO2 をクレジットで削減してアピールしてはどうか
- ・ 市がクレジットを創出していることをもっと宣伝してはどうか

(2) 自然環境保全・生物多様性に関する意見

① 希少植物保護の現状と課題

● 現状と課題

- ・ 中津川シデコブシの会では市内自生地保護と植栽地育成保護を実施している
- ・ 天然記念物指定は市内 4 件、県 1 件が指定済み
- ・ 小規模自生地が保護されておらず、継続的な調査も実施できていない。数本単位の生息地は手付かずで、地主によって守られていない場合は伐採されている
- ・ PR 不足で地元以外では認識が少ない
- ・ 希少植物が中津川市にあり大切だということを子供たちに認識させる教育が足りていない

● 施策に対する意見・要望

- ・ 環境課と文化課が分離している。天然記念物は文化課が指定、保全は環境課。行政の一本化をお願いしたい
- ・ 市からの地域への PR をしてほしい
- ・ 希少植物に係る教育の実施

② 野生動物対策

● 現状と課題

- ・ イノシシ・シカ被害は確実に増加している
- ・ 林業では樹皮を食べてしまうなどの被害がある
- ・ シカ 1 頭あたり 15,000 円、イノシシ 1 頭あたり 24,000 円の駆除に対する費用が出るが、シカを捕る人がいない。猟師は高齢化しており、都会からくる猟師もいるが生業にしているわけではない。
- ・ ジビエとして処理する取組があるが食品衛生法上の問題がある

(3) 資源循環・ごみ対策に関する意見

① 有機資源循環の推進

● 現状と課題

- ・ 畜産廃棄物はたい肥化している。
- ・ 野菜の高騰でプランター栽培の風潮が高まっており、そうしたところでたい肥を利用してもらえる機会があるのではないか
- ・ 市内事業者が売れ残りをたい肥にして自社利用するという先進事例がある
- ・ もみ殻を有効利用するため、JAが必要者への無料配布を実施している

● 施策に対する意見・要望

- ・ もみ殻燐炭施設を農家の土地改良に活用できるとよいのではないか
- ・ 畜産廃棄物由来の肥料を農家に譲渡し、農家から飼料米を畜産農家に提供するという、農畜連携をもっと進められればよいのではないか

② バイオディーゼルの取組

● 現状と課題

- ・ 廃油回収の取組を試行。学校給食や区長会中心に実施
- ・ 飲食店からの回収は未実施

● 施策に対する意見・要望

- ・ 中津川市は先進的。航空機燃料に使用する取組などもっと打ち出していくとよい

(4) 環境教育・人材育成に関する意見

① 水生生物調査（カワゲラウォッチング）

● 現状と課題

- ・ 県内で最も活発に実施しており、ほぼ全小学校で毎年4年生対象に実施している
- ・ 2校ほどでは数ヶ月後に試薬を使ったパックテストを実施。単発のイベントではなく継続した調査をすることで考える機会になる
- ・ 指導員が高齢化しており新しい人があまり入っていない
- ・ 市としての熱量が欠けており、広報・PRも不足している
- ・ 担任の先生が転勤してしまうことが多く継続性に欠ける。教員の中に継承者を残すことが難しい
- ・ どの地区でも子供会が衰退している

● 施策に対する意見・要望

- ・ 未実施の学校（2校）にも実施してほしい。周りに河川がないからやらないというのではなく、スクールバスを活用してカワゲラウォッチングを実施してほしい

- ・ 大人向けカワゲラウォッチングの展開
- ・ 部局間連携（学校教育課と環境課）

② 森林環境教育の展開

● 現状と課題

- ・ 小学４年生対象として山の授業や木材使用授業の実施
- ・ 森林環境税を活用した木育の実施

● 施策に対する意見・要望

- ・ 学校側の受け入れ体制に課題
- ・ 予算・制度面の課題

（５） その他の施策提案

- ・ 広域 SDGs や広域連携の推進
- ・ エコツーリズム促進
- ・ EV 交通（バスの EV 化）の推進

３ 将来ビジョンに関する意見の傾向

（１） 自然環境の保全と活用

- ・ 中津川の豊かな森林資源を保全し活用する「森のまちづくり」の方向性
- ・ 自然環境を観光資源として活かし、エコツーリズムの展開など産業化する視点。
- ・ 周辺市町村との広域連携による SDGs や自然共生の取組
- ・ リニア開発と自然環境の共生が重要課題

（２） 人口減少対策

- ・ 多くの意見が人口減少に言及、特に農山村部での限界集落化への懸念
- ・ 若い世代の流出防止のための就労場所の確保が課題
- ・ コンパクトシティ化の推進とともに集落の維持や移住・定住促進の必要性も指摘

（３） リニア開業による変化への対応

- ・ リニア開業を地域発展の契機と捉える前向きな意見が多い
- ・ 東京圏からの通勤圏となることや観光客増加への期待
- ・ リニアのインパクトを活かした産業振興や都市機能強化の必要性
- ・ リニア工事や開通後の森林や自然環境への影響を懸念

（４） 環境と経済の両立

- ・ 環境保全と経済発展の両立が必要

- ・ 太陽光発電などの再生可能エネルギー普及によるゼロカーボンシティ化への期待
- ・ 地域資源（森林、農地など）の持続的活用による経済的・環境的価値の創出を期待

（５） 世代間・地域間の連携

- ・ 高齢者の知識や時間を子育て支援などに活かす世代間協力の提案
- ・ 中心市街地と周辺地域、さらには近隣自治体との連携の必要性
- ・ 多様な人材の活用